

公表

事業所における自己評価結果

| 事業所名 |   | トレスボ長岡京  |     |                              |   | 公表日  | 2025年 3月 31日                                |                                  |  |
|------|---|--|-----|------------------------------|---|--|---|----------------------------------|--|
|      |   | チェック項目   |     | はい                           | いいえ   | 工夫している点  | 課題や改善すべき点                                   |                                  |  |
|      |   | 環境・体制整備  | 1   | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | 50  | 50   | 利用人数が増えるため、新年度より放デイ・児発の2つのスペースを柔軟に活用する必要がある | 活動内容や時間を工夫し限られたスペースでも安全安心な環境をつくる |  |
| 2    | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。   |  | 30  | 70                           | ・基準には沿っているが、子どもの発達に応じて、1対1～1対5くらいまでの柔軟な配置を行うためには、もう少し増員できることが望ましい<br>・配置的には適正なのかもしれないが、現場での安全や職員の負担を考えると適正ではないと思う | まずは仕事の効率化やスリム化をしながら、療育の質を担保していく。そのうえで必要であれば増員も視野に入れる       |   |                                  |  |
| 3    | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 |  | 100 |                              |   |  |   |                                  |  |
| 4    | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。                                 |  | 100 |                              |   |  |   |                                  |  |
| 5    | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。  |  | 100 |                              |   |  |   |                                  |  |
| 業務改善 | 6   | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。   | 50  | 50                           | よりよい療育を提供するためには、今よりも時間がとれることが望ましい   | まずは仕事の効率化やスリム化をしながら時間の捻出の工夫をしたり、必要であれば出社時間を早めに揃えてMTGの時間を作る |   |                                  |  |
|      | 7   | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。   | 80  | 20                           |   |  |   |                                  |  |
|      | 8   | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。   | 60  | 40                           |   |  |   |                                  |  |
|      | 9   | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。   | 50  | 50                           |   |  |   |                                  |  |
|      | 10  | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。  | 100 |                              |   |  |   |                                  |  |
|      | 11  | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。  | 100 |                              |   |  |   |                                  |  |
|      | 12  | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。   | 100 |                              |   |  |   |                                  |  |
|      | 13  | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。   | 80  | 20                           |   |  |   |                                  |  |
|      | 14  | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。  | 80  | 20                           | よりよい療育を提供するためには、より時間がとれることが望ましい   | 活動における困った行動の共有会議は行われているが、支援計画にそった支援としてより密に行われることが望ましい      |   |                                  |  |
|      | 15  | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。  | 60  | 40                           | ・現在使っているツールをよりブラッシュアップしていく必要がある<br>・行動観察が主。標準化されたツールはあるが活用されていない。   | ツールをもう一度確認し使いやすいよう整理していく                                   |   |                                  |  |
|      | 16  | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 80  | 20                           |   |  |   |                                  |  |

|              |  |   |     |                           |  |   |
|--------------|--|---|-----|---------------------------|--|---|
| 適切な支援の提供     | 17   | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。  | 50  | 50                        |  |   |
|              | 18   | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。  | 80  | 20                        |  |   |
|              | 19   | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。                | 100 |                           |  |   |
|              | 20   | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。         | 80  | 20                        | より時間がとれるようなシステムを考える必要がある   | 午前中の時間を有効に使えるように工夫したい                             |
|              | 21   | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。                  | 60  | 40                        | ・より時間がとれるようなシステムを考える必要がある<br>・次の日に支援記録を書くことで振り返りとなっている。気づいた点は週1回のミーティングで共有している | 午前中の時間を有効に使えるように工夫したい                             |
|              | 22   | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。                                  | 100 |                           |  |   |
|              | 23   | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。                   | 100 |                           | 年度より利用者が大幅に増えることにより、計画的に進めることができるようなシステムを考える必要がある                              | 次年度より導入予定の管理システムが定期的なモニタリングを知らせてくれるようなので適切に対応していく |
|              | 24   | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。                         | 50  | 50                        | 地域交流の機会の提供は難しい   | 将来的に交流の機会を創出できればと思う                               |
|              | 25   | こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。                    | 100 |                           |  |   |
| 関係機関や保護者との連携 | 26   | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。                | 100 |                           |  |   |
|              | 27   | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。              | 100 |                           | 積極的に取り組んでいるが、今後、もっと機会を増やしていきたいと考えている   | 特に医療との連携機会がないので保護者様を通じ連携出来ればと考える                  |
|              | 28   | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。 | 80  | 20                        | 学校ではなく保護者経由  | 送迎の際に交通事情や前のお子様の事情のため遅れる際の連絡だけは直接行っている            |
|              | 29   | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。                | 80  | 20                        | 共有があるところとないところがある  | 機関ごとに対応が違うため、お子様の情報に関しては保護者様から丁寧なヒアリングをするよう努めている  |
|              | 30   | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。        | 20  | 80                        | ・まだその年齢に達している利用者がいないが、今後考えていく必要があると考えている<br>・まだ事例がない                           | 地域の情報を集めておく必要がある                                  |
|              | 31   | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。                 | 70  | 30                        | 京都府児童発達センターより虐待防止研修を受けた  | 今後も適切に助言や研修等の機会があれば受けたい                           |
|              | 32   | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。                                  |     | 100                       |  |   |
|              | 33   | （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。   | 70  | 30                        |  |   |
|              | 34   | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。                        | 100 |                           |  |   |
| 35           | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 |   | 100 | 相談支援等をより積極的に行っていきたいと考えている | 参加に無理のない形のサロン形式など考えている   |   |
| 36           | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。   | 100   |     |                           |  |   |

|          |  |  |     |     |                |                               |
|----------|--|--|-----|-----|----------------|-------------------------------|
| 保護者への説明等 | 37   | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。         | 100 |     |                |                               |
|          | 38   | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。                                 | 100 |     |                |                               |
|          | 39   | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。  | 100 |     |                |                               |
|          | 40   | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。 |     | 100 |                |                               |
|          | 41   | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。                       | 100 |     |                |                               |
|          | 42   | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。                   | 100 |     |                |                               |
|          | 43   | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。  | 100 |     |                |                               |
|          | 44   | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。  | 100 |     |                |                               |
|          | 45   | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。  |     | 100 |                |                               |
| 非常時等の対応  | 46   | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。            | 100 |     |                |                               |
|          | 47   | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。                                  | 100 |     |                |                               |
|          | 48   | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。  | 80  | 20  |                |                               |
|          | 49   | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。   | 80  | 20  | 指示書までは提出されていない | アレルギーに関してはダブルチェックを徹底し対応を続けていく |
|          | 50   | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。                               | 100 |     |                |                               |
|          | 51   | 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。                                  | 80  | 20  |                |                               |
|          | 52   | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。  | 100 |     |                |                               |
|          | 53   | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。   | 100 |     |                |                               |
| 54       | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | 100  |     |     |                |                               |